



まちのシンボル「ひと・まち・ゆめ」

わが町 志津南 NEWS

志津南ホームページ

http://waka-kusa.net/

発行
志津南地区自治連合会
連絡先
志津南市民センター
(公民館) 563-6206

約半数が家具転倒、非常食に備え 災害アンケート集計速報まとまる

志津南地区自主防災連絡会(江口孝会長)は12月上旬に実施した災害に対するアンケート調査の速報集計をこのほどまとめました。回収率68・8%でした。

集計速報によりますと、地震発生に備えて家具などの転倒防止対策をとっているのは約半数で、飲料水など非常食備蓄は40%強でした。

また、「災害時に安否の確認や援助などの支援を必要とされませんか？」の問いでは22%強の方が必要と回答しています。

昨年夏に行われた地域全体の消火訓練に参加した住民は15%にとどまっております。低さが浮き彫りになりました。ただ参加した住民は消火器や消火ホ

町名	配布	回収	回収率
若草1丁目	111	108	97.3%
若草2丁目	113	79	69.9%
若草3丁目	100	85	85.0%
若草4丁目	109	86	78.9%
若草5丁目	89	58	65.2%
若草6丁目	136	95	69.9%
若草7丁目	97	64	66.0%
若草8丁目	90	30	33.3%
岡本町西	57	16	28.1%
合計	906	621	68.8%

心新たに筆走らせる

子ども会が書き初め大会



真剣な眼差しで筆をふるう子ども達

新しい年にふさわしい字を書こう。

子ども会の書き初め大会が1月5日、志津南市民センター(公民館)で開かれ、小学1年生から6年生までの42人が参加、ウデを競いました。

講師の川村荷心先生と山本寿里先生の指導を得ながら「うし」や「力もち」「希望」などお正月にちなんだ言葉を一文字一文字真剣な表情で筆を走

スの取り扱いに理解を深めたこととは収穫といえます。平成21年5月末までに設置が義務付けられている住宅用火災報知機については70%が設

ユニークな実践例聞くと 有意義だった地域福祉懇

志津南地区社会福祉協議会は12月6日、大津市桜馬場自治会「さくら福祉の会」の橋本たか子代表を招いて地域福祉講演

らせました。「難しい」「うまく書けた」など自分の書いた文字に一喜一憂しながら、それぞれ最高の作品を提出しました。

川村先生は「子どもの素直さが文字ににじみ出ているとてもよかった。みんな熱心に取り組んで非常に盛り上がった」と笑顔で話していました。

清書した作品のうち1枚は市民センターの審査に、もう1枚は草津市の審査に出品され、入賞作品は市民センターのサロンに展示されました。

(龍谷大学 手島瑤奈)

置済みと回答しています。

自主防災連絡会では、今回のアンケートで得られたデータをもとに、今後の取り組み課題などを年度内にまとめるよう検討を進めることにしています。

今号では、集計速報のみ報告させていただきます。(自主防災連絡会)



と懇談会を開催しました。写真同会は高齢者住民が増加する中、安心して暮らせる町づくりを目指して数々の先進的な取り組みを展開しており、当地区にとって大変参考になる貴重な体験を聞くことができました。「さくら福祉の会」は自治会組織の下部組織に位置づけられており、志津南の状況とは少し異なります。

また、自治会役員は一年ごとの輪番制ですが、福祉委員は複数年の任期であり、住民の皆さんが自分のことだけでなく、「月に半日のボランティア」を合い言葉に、月に1〜2時間のボランティアを行っています。

主な活動としては、独居、70歳以上の夫婦への電話による見守り活動 テーマを設けた「ふれあいサロン」の実施 高齢者向けIT教室の開催 お伝いボランティア安心活動 広報誌の発行、福祉講座 ボランティア育成講座の実施などが紹介されました。

なかでも私たちが参考にしたい活動は「お手伝いボランティア券」の発行。若いときにボランティアをすれば、将来、お手伝いしてもらえるボランティア貯金「ちよいぼら券」という、草刈りや代わりに病院まで薬を貰いに行ってもらおう、庭木を剪定してもらおうなどの簡単なボランティアに使える利用券で、ボランティアコーヒー店のふれ合い喫茶などにも利用できるといふものです。

講演後は、住民から活発な質問が飛び出し、時間を忘れるほどの中身の濃い福祉懇談会となりました。

(志津南地区社会福祉協議会)

みんなで楽しくクリスマス

華やかに音楽の祭典

8回目迎えたミニュージックソン



見事なハーモニーぶりをみせた出演者

志津南市民センターを拠点に活動しているサークルと地域の音楽愛好家を中心として平成13年に始まった、音楽の祭典「ふれあいミニュージックソン」が12月20日、市民センターで華やかに開催されました。

8回目となる今回は、プログラムを3部に分け、それぞれの出演者たちが日ごろの練習の成果を披露しました。

午後1時、和太鼓の勇壮なリズムとかげ声で、第一部「とき

めき発表会」がスタートしました。参加9組による趣向を凝らした演出に、会場は拍手と歓声に包まれました。恒例の全員合唱・合奏では、会場がひとつになって「翼をください」「雪の降る街を」「きよしこの夜」の3曲を歌いました。

第二部は「カラオケ発表会」で、今回初めて設けた特設ステージで、華やかにまた和やかに自慢のどを競い合いました。

続く第三部の「ダンスパーティー」

では、軽音楽の演奏を合図に、会場がダンスホールへと早変わり約400人の参加者が一足早いクリスマスを楽しみました。

今回、同時開催としてフラワーアレンジメントや刺繍作品などの展示も行いました。多彩な音楽とともに盛大なミニュージックソンになりました。

サンタを囲んでみんなにっこり



サンタがやってきた

たんぼぼ、おやこっこ合同で

彩りを添えた作品展示



サンタさんがやってきたよ！

子育てグループ「たんぼぼクラブ」「おやこっこクラブ」合同のクリスマス会が12月5日、志津南市民センター（公民館）で開かれました。

軽快なクリスマスソングが流れる会場ではきれいに飾り付けされた大きなツリーのツリーがお出迎え。お母さんに手を引か

れ集まった子どもたちが、もううれしくてたまらない様子で元気よく走り回っていました。

子育てクラブお世話係りのリードでまずは親子遊び。ダンボールの長い長いトンネルが会場いっぱいにつながると、子どもたちはさっそくもぐり込み大はしゃぎ。

そんなひとときが過ぎると軽やかな鈴の音を響かせトナカイ

若草文庫もケーキづくり



さん、大きな袋を担いだサンタクロースが登場すると一段と大きな歓声が上がりました。そのサンタさんに続いてみんなで会場を行進、最後にサンタさんから一人ひとりにプレゼントが手渡されると「ありがとう」とニコリ。

こうして50組余の親子はクリスマス楽しいひとときを過ごしました。（民児協）

若草文庫でも12月17日、恒例のクリスマスケーキ作りを若草第3集会所で行いました。

小学生の子どもたちや小さい子ども連れのお母さんらが、ロールケーキの生クリームや果物、

V 思わずにケーキが上手に

お菓子を使って飾り付けをしました。自分だけのクリスマスケーキの出来上がり！みなでおいしくいただきました。

来年は1月7日（水）から文庫をひらきます。午後2時から5時の間に本を借りに来て下さい。小さいお子さんとお母さんが集う「どんぐりクラブ」は14日

（水）の午前10時からです。初めての人もどんどん参加下さい。

問い合わせは若草3丁目の村井（564）6893までどうぞ。

こよみ

- 1月18日(日) くさつ子どもフェスタ2009 野村運動公園グラウンド、市民体育館 10:00~13:30
 - 1月20日(水)~21日(木) IT講座 13:00~16:00
 - 1月24日(土) 人権講座 19:30~21:30 家庭教育ホット&ほっと交流会パート3 13:00~16:00 草津アマカホール
 - 1月25日(日) おもしろ江戸たいけん 10:00~12:00 草津宿街道交流館
 - 1月27日(水) 子育てサポーター等実践交流会 13:30~16:30 まちづくりセンター(3F)
 - 2月6日(金) ふれあい昼食会 12:00~13:00 定例健康相談日 9:30~12:00
 - 2月13日(金) 第1回食育講座 9:00~12:00
 - 2月14日(土) わんぱくプラザ南っ子餅つき大会 9:00~12:30
 - 若寿会
 - 健康ウォーキング 毎月第1、第3土曜日
 - 奉仕作業 毎月第4土曜 ともに8:45若草中央公園集合
 - 地域サロン：懐メロを歌う会 毎月第2、第4火曜日 10:00~11:30 市民センター(公民館)
- 印は志津南市民センターです



仕上がった正月花

本紀久子さんから、牛乳パックを使った小物入れと箸置きも教えてもらい、お正月の脇役グッズも整えました。花飾りが崩れないように大事なうに抱えた

公民館教養講座 正月飾りつくる

志津南市民センター(公民館)は「お正月飾りを作ろう」と題して教養文化講座「エンジョイ・マイ・ライフ」を11月5日と19日、12月24日の3回コースで開催しました。初めの2回は、干支の牛を布絵に仕上げる壁掛けに取り組み

ました。3回目は、バラのブリザーブドフラワーや水引、稲穂、ボンボリなどを華やかに使って小ぶりの正月花に仕上げました。時には和気あいあいと、時には声も出ないほど真剣に作業し、少し余った時間には、講師の本紀久子さんから、牛乳パック



地域の子どもが集まる第6回「わんぱくプラザ南っ子」が12月13日、志津南市民センター

自分だけの凧だぞ

わんぱくが和凧づくり

受講生らは「早々とお正月が来たね」と満足そうに顔を見合わせました。晴れやかな「丑年」の幕開けになりそうです。

「公民館」で行われ約30人が参加しました。写真は「世界にひとつの和凧(たこ)をつくらう」と、

ふれあいの歌声響く

社協が締めくくりの催し

みんなと一緒に楽しく歌い、より交流を深めようと「歌い継いでいきたい日本の歌みんなで歌うふれあいの会」(志津南地区社会福祉協議会主催)が12月21日、志津南市民センター(公民館)で開かれました。

みんなで楽しく大合唱



この日はクラシックギター愛好家の村井教夫さんによる歌の紹介と解説のあと、「アカシヤの

風博物館八日市大凧会館(東近江市)学芸員の鳥居勝久さんを講師に招きました。初めに、鳥居さんが八日市大凧の話をする、子どもたちは熱心に興味深く聴いていました。続いて凧作りです。和紙に描く絵がなかなか決まらず、思い悩む子どももいましたが、そのうちに自分流の絵を工夫して楽しく色づけしました。

次は骨組みの手順。少し難しいところもありましたが、協力者の手伝いもあって、講師の説明通りに作業を進め、最後に飾り足をつけて糸を通し凧が完成すると、うれしくて出来立ての凧を手に取り出す子どももいました。子どもたちの作品は、同センターの玄関正面に展示、多くの来館者に「へえ、かわいい凧ね」と好評でした。

雨が止む時」を皮切りに「お富さん」「有楽町で逢いましょう」「琵琶湖周航の歌」など懐かしい歌から、最近のヒット曲「千の風になって」まで20曲をみんなで大合唱。お菓子とお茶の休憩を挟み、あつという間に予定の2時間が過ぎてしまいました。もっと歌いたいアンコールでは人気投票で第1位になった「琵琶湖周航の歌」を全員で大合唱。

忙しい時期でしたが、約50人の参加者が楽しいひとときを過ごし、当協議会の一年を締めくくりました。(社会福祉協議会 福祉部)

サウザン 万歳

木枯らしか、と思うほどの冷たい風が吹き抜ける12月初めの「むれやまグラウンド」。足元からは上がる冷気をものともせず(本当のところは知らないが)、白髪まじりの10人ほどが白球を追っている。若草ソフトボールクラブ(降矢義夫代表)の面々である。



冷たい風が吹き抜けるグラウンドで練習に励むクラブ員

衰え見せぬ熟年集団

若草ソフトボールクラブ

は記憶に新しい。そこまではともかく、わが若草ソフトボールクラブの強さは知る人ぞ知る。速球なし盗塁なしのルールながら、平成4年に草津市ソフトボール協会に加盟するや翌々年には協会長杯大会で優勝。平成7年に加盟した県ソフトボール協会でも同9年に協会長杯を手にして活躍はまだ続く。平成13年、

チーム唯一の女性で、ベンチ入りしたいばかりに公式スコアラの資格を取ったというマネジャーの北原智子さん(1丁目)も「毎週練習しているのはウチぐらい」と熱心に花マル印。さらに「話すのはソフトのことばかり」と愛情こめて「ソフト馬鹿の集まり」と笑う。一方で「家にいるより練習に行く方が夫婦互いにいいのかも」という陰の声もまた真実味を帯びる。

全国実年選手権大会滋賀県大会で優勝し下関で行われた全国大会に出場した。この時は1回戦で準優勝した長崎に接戦の末敗退した。このほかねりんんビック滋賀県予選の準優勝や近畿大会出場など、

チームを評して、今年から監督となった舟木要さん(5丁目)は「とにかくよく練習する。草津には28チームあるが、こんなに練習するチームはほかに見当たらない」と練習量の豊富な点を挙げる。だから「年を忘れて無理してけがをしても困る」という配慮から、チーム編成を一般(年齢制限なし)、実年(50歳以上)とは別に1昨年、シニアの部(59歳以上)を設けた(そのシニアチームは昨年11月の湖南4市のシニア大会で優勝)。

よく練習するだけに常に頭を痛めるのがグラウンドの確保。申し込み時には奥方たちの協力を得て抽選に臨むそだ。

代表 降矢 義夫
 役員 36人
 活動 毎週末または日曜日
 午後1時30分〜同4時
 場所 むれやまグラウンドほか
 会費 月額3600円
 連絡先 降矢代表
 電話 (562) 5275

受講生募集

市民センターでは食育講座の受講生を募集しています。

「家庭で簡単にできる安全なおやつ、軽食」

日時 2月13日(金)と20日(金)の2回

午前10時から12時まで

対象者 市内在住在勤の方

受講料 1回300円

定員 各回20人(多数の場合)

場合は抽選)

申し込みは1月31日から

人権講座の開催

人権講座を次の日程で開催します。多数ご出席ください。

日時 1月24日

19時30分から21時30分

講師 立岡勇一さん

場所 志津南市民センター

内容 人権コンサート他



新しい年が明けた。元日の朝を迎えたとなく身の引き締まる思いがする。同時にいつも思い浮かべる江戸川柳がある。「門松は冥土の旅の一里塚めでたくもありめでたくもなし」というもので、長屋のご隠居さんの悟りきった顔つきが見えてくるようで面白い。

人それぞれに一里塚の数は違う。定数もない。子どもの一里塚には一年の成長の喜びが刻まれるし、60、70歳の人には一年を無事にやりすこした安堵感が漂う。同時に、それだけ冥土に近づいたことに思い至る。まさに「めでたくもありめでたくも

なし」である。最近は一里塚をどうやり過ごしていくか、などと粋がっている。新しい年が旧い年を引き継ぐ限り、世界を見て日本を見て、そうそう目を見張るような展開が期待できるわけでもない。それでも心あらたまるのは、かすかな望みをつなぐからだろう。昨年を代表する漢字は「変」

一里塚

「変」だったが、いや「乱」じゃないかと言う人もいた。どちらにしても歓迎したい漢字ではない。

人はおだやかな一年であることを願っている。今年はどうな漢字が選ばれることになるのだろうか。

(T)